

JIA 長野県クラブ 27

社団法人 日本建築家協会

1997. 7. 1

7年度 社団法人日本建築家協会関東甲信越支部長野地域会 長野県クラブ通常総会



▲あいさつする出澤会長

▼長野地域会として認定

JIA長野県クラブ通常総会



JIA長野県クラブ総会97



▲会員の作品展

▼10周年で感謝状



原点を見つめて

会長
出澤 潔

JIA長野県クラブは創立10周年という節目に時を同じくして、去る5月28日の本部総会において長野地域会として承認され、JIAでの立場が明確になりました。

私達は現在の状況をあらためて確認し合い、未来への新しい一步を踏み出さなければなりません。私は機会ある毎に、「私達は地域社会の一員として、建築を通して社会のお役にたつ責任を与えられている。その責任を全うするために何をすることが大切なのかを考えなければならない」と申し上げて参りました。自分をとりまく人々の為に、より良い環境作りのお手伝いをさせていただいているという皆様おひとりおひとりの心が地域の人々に伝わった時に、私達は愛され、求められ、JIAの目指すものが実現するのだと信じています。

昨年度は会内部のシステムの充実に力を入れさせていただきました。会のより一層の飛躍のために、本年度は賛助会員を含めた全会員の皆様が会の活動に更に積極的に参加出来るシステムを考えなければならないと考えています。どうか皆様のより一層のご協力を切に申し上げます。



地域会として

㈸日本建築家協会関東甲信越支部長
斎藤 孝彦

昨年の総会で地域会についての定款改正が行われてから、全国の地域会のほとんどが公認のJIAの組織ということになりました。正式には今年5月30日の総会から発足することになります。形式的なことをいうと、各地の地域会から提出されている規則の中には、必ずしも本部の地域組織検討委員会が立案した原則に合わないものもあります。なかでも、最も議論のあるのは特別会費制度でしょう。地域会への加入が原則自由であるなら差し支えはないのですが、JIAは全国単一組織である上、地域会が事実上強制加入に近い状態のまま地域会費をとるのは二重になることから好ましくないというのがその理由です。幸い、長野県クラブはこの問題をクリアされていますが、地域会のなかには財政的理由から、現行の地域会費をやめられないところもあるようで支部としても頭の痛いところです。

さて、JIA長野県クラブは、関東甲信越支部の中でも神奈川・千葉と並ぶ大地域会であり、日頃の活動を通じてJIAの地域組織にとって欠かせない重要な役割を担っておられると認識しており、支部長として深く感謝申し上げますとともに、今後とも宜しくお願い致します。

北信



まちづくりにおける本物指向

関 邦 則
(有)関建築+まち研究室

「モノの時代から心の時代へ」と言われてきた。心の時代とは心の充足のために無形の精神的なものが重要であるという意味で言われているが、有形のモノも伴ってはじめて実感できるものである。しかしモノ不足時代におけるモノ指向とモノ充足時代におけるそれとはおのずと異なっている。かつては不足を満たすための量的な指向であったが、今はモノに対するこだわり現象が見られる。こだわりは本物を指向する。本物とは表面的にはブランドや材質等に置き換えられるが、核心には存在感の証明が内在している。

私はまちづくりにおける復活再生の動向も同じ指向性として理解したいと思う。歴史文化を活かしたり周辺景観との調和をはかるといった表面的な動機の根底には古いものに本物としての価値を感じているところがあるのだと思う。高度成長時代に行なった安直な改修や化粧を取り去り、かつての面影に本物としての文化の厚みや手作りの暖かさを発見しているのだろう。長野市内で起きた長野高校や長野駅舎の保存運動にしても、それに馴染みを感じているという以上に、新しくつくられるものに本物を期待できないことに対する反動から旧建物に本物としての価値を見出していたのだと思う。本物とは唯一性であり再生も再現も不可能である。本物には語り継がれる伝説が伴う。新長野高校校舎にはデザインや材料について我々のこだわりがある程度までは実現された。本物としての評価（伝説への可能性）はすぐには定まらないが、やがて学校の歩みとともに歴史が育ててくれる可能性を信じたい。新長野駅舎には旧駅舎に勝るエネルギー（永続性への予感）や本物感が感じられない。

昨年、中央通り大門町が生まれ変わった。手作りの石畳やアンティークな街灯、善光寺から移された常夜燈等によって個性豊かなまち空間に変貌した。ここにはまちの人たちの深い情熱が込められており、それが本物として人々の感性に訴えかける表現になっているのだと思う。手加工の御影石は人間味を感じさせる。土蔵の建築も化粧直しをされてかつての面影をよみがえらせた。

善光寺境内の駒返橋周辺の参道の石も改修されたが、最高価な本小松石を使い元の石に近い表情にこだわった。橋両側には水路がつくられ、水の流れがあらわれてさわやかで落ち着いた風情を創出している。橋と水のあるべき姿の復元に関わることができた。まちが徐々に本物になっていくことに人々は大きな喜びと期待を感じているのではないかと思う。

南信



近頃感じる 設計事務所の意味

丸 山 幸 弘
館設計工房

私の事務所では、昨年からインターネットを使い、ホームページを開設しています。内容は設計事務所の業務案内や作品紹介、国内や海外の気になる建築の紹介をしています。そのホームページの中で設計相談コーナーを開設しており、E-Mailで相談が送られて来ます。気軽な気持ちで開設したのですが、現在とんでもない事になっています。

それは当初、相談コーナーにくる内容は「これから建築を考えているのですがどうしたら良いでしょうか」というようなものを予想していたのですが、実際に送られて来た相談のほとんどは、全く意に反している内容でした。「今、建築中なのですが現場と設計図面と違う箇所があります。どうしたら良いでしょうか」とか「現場で気に入らない所があって変更をお願いしたところ、最初に言ってくれないとできないと言われて困っています」などというMailが多く送られてくるのです。ほとんどが業者とのトラブルの相談です。

私は心の中で「こんな事は最初に近くの設計事務所に相談していればなんでもない事なのに…」と思いながらも、せっかくMailを送っていただいたので返事を書こうと思うのですが、何をアドバイスすればよいのか悩むことがしばしばあります。結局なぐさめ程度のことしかできず、申し訳ないような気がします。最近は設計依頼の施主というより、Mail友達のような施主が増えてきているのです。私たち建築を行う者にとって、これほど切ない事はありません。何とかこのようなトラブルに巻き込まれる前にアドバイスができないものでしょうか。これからはもっと一般の方に私達設計事務所の業務を理解していただき、そして利用していただくように努力しなければならぬのではないのでしょうか。

URL <http://www.clio.or.jp/~kan-art/>
 E-Mail kan-art@clio.or.jp

中 信



まちづくり～地元建築家の役割～

荒 井 洋
HAL一級建築設計室

今年に入って松本市の中央商店街が急速に変わってきました。これは土地区画整理事業により建物の取壊しが本格化したからです。12haに上る事業で、長野市ほどではありませんが建設業界は活気づいています。

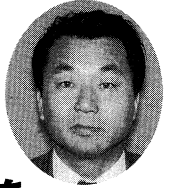
しかし、それを手放して喜んでいて良いものでしょうか。この事業の一般市民向けパンフレットの副題には「水と緑・ゆとりとうるおいのある街—ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」とあります。松本の顔である蔵のほとんどを解体し、町の中央を流れるきれいな水路とその水路添いの路地も大半が失われようとしています。そして忘れてはならないのが城下町の証人である地割そのものが新道路によって破壊されてしまうという事です。町の中心を貫く25m道路には街路樹が植えられ、水路のイメージを継承するせせらぎができるそうです。本物のふるさとの顔を壊し、新しいふるさとの顔づくりをする事を本当に市民が望んでいるとは思えません。

私はこのような事業を進めている行政を単純に批判するつもりはありません。この事業の経済的効果は大変大きいからです。ただ、その事業の方向や手法を決定する時に、JIA会員である我々専門建築家をもっと意見を述べるべきだったのではないのでしょうか。利害関係に左右されにくい我々こそが冷静に判断できる立場にあったような気がします。利用可能な資産である蔵や水路を残し、その周辺を歩行者専用の空間として利用する。そんな松本方式の土地区画整理事業は不可能だったのでしょうか。

松筑地区にはJIAを含めた建築3団体による、まちづくり委員会があり、今年で13年目を迎えます。先輩諸兄の努力が実り、近年は様々な団体から相談を受けるようになりました。行政から意見を求められる事もあり、事業決定前であれば十分な話し合いができる事を知りました。まず我々専門の建築家をもっと開かれた専門家集団となって情報が集まり安い環境をつくり、民間と行政との橋渡しの役割と、信念に基づいた意見を述べ続けることが、これからのまちづくりのひとつの方向になりそうな気がしています。

2月に入ってイタリアのフィレンツェに行ってきました。旧市街のほとんどが年間を通して歩行者天国なのです。私のような人間は、どうしても上を見あげて口をあぐりと開け、知らぬ間に道路のど真中に立っている、というのが常ですから、車に気を使わずに済む幸せを存分に味わってきました。これもフィレンツェ市民の選んだまちづくりです。

賛助会



お互いに 有益な関係を

株式会社長野支店 渡 辺 一 成

現在は、以前にも増して建築物に対して、環境、景観、地域性が求められています。技術に関しては、耐震構造、高断熱、太陽光発電等々の要素がそれぞれの用途に応じて必要とされ、費用においては、イニシャル、ランニングコストを含めトータルで軽減出来る建物が要求されてきています。

設計者の皆様方におかれましては、それぞれの立場の中で、施工の過大な要求により御苦労されている事と思えます。我々賛助会員も交流委員会等のJIA活動の中で、皆様方との有益なコミュニケーションを持ちながら、活動させていただいております。また、我々の立場では、用途、要求に応じた新工法、新商品の開拓、販売に研鑽している所です。商品によっては、デザイン等の意匠提案も行っています。

お互いの目的である良い物を建てるという事に向かって、有益な関係が機能出来ればと思っております。皆様方の情報提供とお声がかかる事を首を長くしてお待ちしております。



メンバーの 一員として

株式会社長野コクヨ 滝 澤 常 人

前任者(元常務取締役 西原重男)平成9年3月退任にあたり、この度、窓口担当者となりました。今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

過日、第一回の交流委員会に出席したところ、高橋委員長を議長にコミュニケーションシート(改訂)の議題につき議論されていました。各委員からは、活発かつ前向きな意見が出され、シートの中味については各社・各担当者が「見やすく」「使いやすく」などと、いろいろと検討をしていました。自身のことだけでなく、業界全体の繁栄にまで意見がおよぶ有意義な会議であったと思えます。

今後はメンバーの一員として、足手まといにならぬよう努力する所存でありますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

大学の部

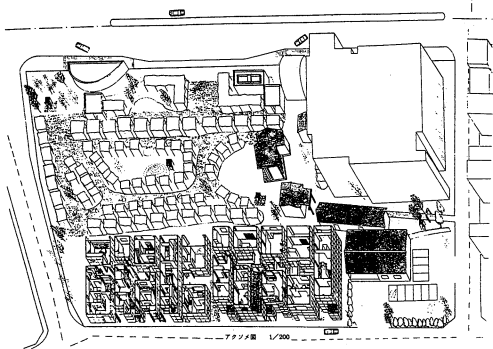
コンクール審査委員会

委員長 藤森照信 (東京大学教授)
委員 柳澤孝彦 (建築家)
" 柳沢京子 (グラフィックデザイナー)

委員 宮本忠長 (建築家)
" 出澤 潔 (JIA長野県クラブ会長)

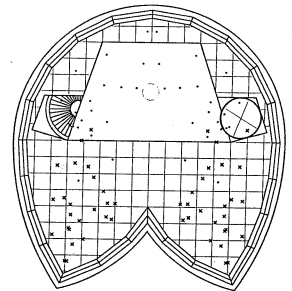
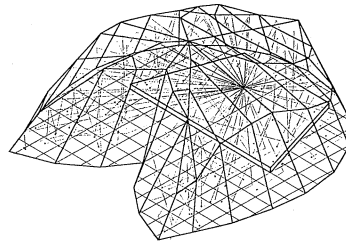
金賞

「コミュニティー革命」 木村 友紀
(信州大学工学部)

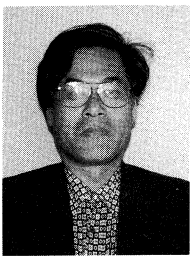
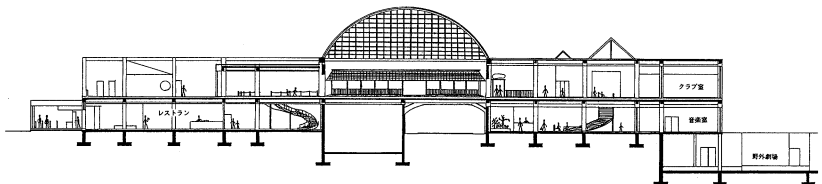


銀賞

「GLASS STUDIO」 上明戸 昇
(信州大学工学部)



銅賞



審査をふりかえって

審査委員長 藤 森 照 信

このコンクールも回を重ねるにしたがい、次第に方向がみえてきたように思われる。

ここで言う方向とは、我々審査員の評価の方向。高校については、なにはともあれ平面計画の良しあしが問われる。大学については、コンセプトが問われ、平面がチェックされ、表現が吟味され、いずれもバランスがよく、かつレベルの高い作品が金となり、どれか一つ突出していれば銀か銅になる。

さて、今年はどうであろうか。

まず高校の部から見ると、全体としてレベルアップが推察されてうれしいが、中でも大平真理子さんの店舗併用住宅は審査員全員が高く評価し金賞となった。医院と住宅の併用という極めて難しいテーマに取り組みながら、平面計画は混乱に陥ることなく整理されている。日照などの環境への配慮も良い。加えて外観は、屋根スラブをゆるくカーブさせることで単調になりがちな外観に変化を与えている。

銀賞は山口和也君と依田綾子さん。それぞれの郷土博物館は、展示部門と管理部門を左右に分けた平面計画が評価された。

銅賞の浅野佳章君の公民館は高校の部には珍しくパー

スに意欲が見られ、永井さゆりさんの二階建専用住宅は、いかにも暮らしやすそうな平面が良い。外谷忠土君の郷土博物館はファサードがしっかりしている。

つづいて大学の部について。

全体のレベルは高めの水平飛行状態と言っていると思うが、そうした中で木村友紀君のコミュニティー革命と上明戸昇君のGLASS STUDIOの二つが注目を集め、審査員の票を大きく二分することになった。

木村作品は、コミュニティーの再生というテーマはありふれているが、昔ながらの屋形式を意識的に踏襲しようというところは興味深い試みである。表現は伝統と現代の接点を探っており、この努力も良い。その裏に多目的の空地を取った判断も面白い。しかし最も審査員の目を奪ったのは、平面設計と表現の両方が感得される独特な味わいであった。独自のセンスがこの計画全てにいき渡っている。このことは大学生レベルでは、ありそうではなかなかないことである。

上明戸作品は、ガラスの音楽ホールという世界初の試みに挑んだ意欲作であり、音響計画まで踏まえたこれまでにない方向での設計であった。信州大学でこうした方向の取り組みがなされたことは誠によろこばしい。もし余力があり、平面と表現の充実が図られていたならちょっと惜まれる。

よって金賞は木村作品、銀賞は上明戸作品となった。銅賞の内田実成君の大野町倶楽部は、平面、表現、そして図面表現と、いずれもよくまとまっている。模型もよくできていた。これにひとさじの「塩」が加えられていたなら深い味になったろうにと惜まれる。

'97 J I A 長野県クラブ通常総会記念講演会を聞いて

本物の建築

君島弘章 (君島弘章建築設計事務所)

建築家「鬼頭梓」という名前を始めて知ったのは私が建築学生2年生の頃だった。日野市立中央図書館が4年目をむかえた頃だったと記憶している。東京経済大学図書館は9年目をむかえていた。友人と共に見学した日野の図書館は、鬼頭先生の苦闘の跡を微塵もみせず、静かに、本当に静かにすっとただずんでいた。鬼頭先生の作品は、周到に計算され綿密に構成された空間にも関わらず、強く引き締まった無駄のない独特のスタイルゆえ端正でさりげない。しかし、底無し沼のような、ある種独特の深い味わいを残しているように私にはおもわれた。10年にもおよぶ闘いの末、東京経済大学の大教室棟は私が社会人となった後の1977年に完成した。「問題を抱え込めば抱え込むほど、悩んだだけ建築は深くなってゆく」と鬼頭先生は先輩から教えられたと言われた事があるが、この建築はまさにそういう過程を経て出来あがったのである。先生が、「私の普通の建築ですよ」とおっしゃられるのを聞いたとき、背筋が寒くなった。あれが普通なら建築とは、創造とはなんて長く遠い道のりであろう。

「前川国男は“人間が人間である以上、なにか変わらないものがあるのではないか”と言われたが、ひょっとしたら、そのなかにこそ建築の生命を支えるものがあるのではないか…」という話は興味深く、心に強く焼きついた。更には、国際社会の中での日本の建築界の有り方に心を砕いておられる様子には、個人的に涙があふれた。この問題に無関心である人達も多いであろうと思われるからである。火傷をしてみないとわからない哀れさは、恥ずかしながら日本という国の民族性なのかもしれない。

今回の講演会でもっとも興味深かったことは、わずかなスライドと、数分間の映写時間、さらには御自身の作品にたいして短いコメントしかなかったことである。建築の骨格、この照射にこそ命題があったのである。恐ろしい程の安易な建築が増えるなか、鬼頭先生の師であられた故前川国男先生の言葉が今こそ重くのしかかる。「本物の建築」という一言を、もう一度、私達若い世代は噛み締めてみる必要があるのではないだろうか。

古き良き伝統

畑智弥 (信州大学工学部)

「未来を創る」という演題の講演会だった。当日会場で見たととき、何とも曖昧ではっきりしない演題だと感じた。しかし、「未来」という言葉にはまだ見ることのないものを夢見させてくれる響きがあった。「未来」という言葉を国語辞典で調べてみると「これから先に来る時、将来」と書かれている。つまり、この演題には建築家としてどのように将来を見つめていくか、という意味が含まれているように思う。鬼頭先生は将来、建築家がどうあるべきかを示唆してくれたように感じた。

「現代の建築はサイクルが早い。30年前の建物も見つけるのに時間がかかる」と言われた。これには非常に驚いた。私は大学で数度古くからの民家の実測調査に出かけたことがあるが、ここで見ることのできる民家は、建造後100年や200年を過ぎたものばかりである。これらを見る毎に構造や意匠などの美しさに変え感激させられ、単なる木造の住宅建築が100年以上その場に存在する

という存在感にも驚かされる。「建物は古くなっていく。それに対して人間の社会生活や活動は新しくなっていく」と、先生は話された。

人間の生活レベルにあわせて、建物も新しいものになっていく。いったい、どれだけすばらしい建築になれば人間は満足できるのだろうか。「最近の建築は個性が重視され、無償の美しさが無くなってきた」という言葉には考えさせられる。

未来を見据えた上で建築を創ることができれば、自分たちの生きる社会はすばらしいものになるだろう。しかし、未来を見ることと同様に、過去にも目を向けるべきだと思う。過去のものには既に存在し、また、急速に失われていく。私は建て替えて新しくするばかりが良いことではないと思う。古くからその土地に住む人に受け継がれてきた家があるように、建築も新しいものばかりでなく、古き良き伝統をふまえて、考えるべきだと感じた。



「未来を創る」

建築家 鬼頭 梓



正 会 員

足利 憲孝 (株)宮下設計アトリエ
 甘利 享一 甘利享一建築設計舎
 荒井 茂明 (有)A & A 構造研究所
 新井 典夫 H A L 一級建築設計室
 荒井 洋 H A L 一級建築設計室
 新井 優 新井建築工房+設計同人NEXT
 飯島 和夫 (株)飯島建築設計事務所
 池田 豊雄 (株)桂建築設計事務所
 池田 瑞夫 池田建築工房
 出澤 潔 出澤潔建築設計事務所
 市瀬 清志 (株)桂建築設計事務所
 伊藤 公績 (株)伊藤建築設計事務所
 伊藤 清文 (株)鈴木建築設計事務所
 伊藤 宗春 (株)伊藤建築設計事務所
 大木島清穂 (有)西沢構造設計事務所
 小笠原光彦 (株)県設計事務所
 沖村 陽一 (株)環境計画
 荻原 白 (株)宮本忠長建築設計事務所
 片桐 一幸 かたぎり建築設計事務所
 片倉 隆幸 片倉隆幸建築研究室
 上村 保弘 (株)カミムラ建築研究室
 川上 恵一 (有)かわかみ建築設計室
 北澤 隆重 (株)伊藤建築設計事務所
 木下 光 環境プランニング
 君島 弘章 君島弘章建築設計事務所
 久保 隆夫 (株)宮本忠長建築設計事務所
 久保田正博 (有)みすゞ設計

久保田三代 (有)久保田建築設計事務所
 熊谷 實 (株)桂建築設計事務所
 倉橋英太郎 (株)倉橋英太郎建築設計事務所
 小菅 健 小菅建築設計事務所
 小林 隆茂 小林隆茂建築設計事務所
 小松 蒼一 小松一級建築士事務所
 小宮山直樹 小宮山建築計画事務所
 斎藤 治 (有)斎藤建築デザイン室
 斎藤 裕 建築研究室夢香房
 櫻井 武久 (株)櫻井武久建築設計研究所
 佐藤 友治 計画工房都市建築設計事務所
 篠田 論 (株)宮本忠長建築設計事務所
 篠田 尚幸 N A O 設計室
 篠田 博文 (株)マルタ設計長野支所
 篠田 博文 (株)マルタ設計長野支所
 城取 義直 (株)城取建築設計事務所
 須田 邦則 (株)アーキ・クリエイション
 関 邦則 (有)関建築十まち研究室
 高橋 重徳 (株)ローカル建築設計室
 武井 辰夫 (有)武井建築設計事務所
 竹花 彰男 彰建築設計事務所
 児野 登 (株)アーキディアック環境計画研究所
 土屋 長命 (株)シティープラン
 中澤 栄二 (株)エビシー一級建築士事務所
 西沢 潔 (有)西沢構造設計事務所
 西沢 利一 (株)西沢建築研究所
 西沢 広智 (株)宮本忠長建築設計事務所
 西澤 嘉雄 (株)宮本忠長建築設計事務所

根石 忠生 (株)鈴木建築設計事務所
 羽生田八郎 (株)羽生田建築設計事務所
 場々 洋介 (株)フジ設計
 原 逸穂 (株)カミムラ建築研究室
 萬羽 増雄 ばんば建築研究室
 細川 義雄 細川義雄建築設計事務所
 益田 誠一 (株)大建設計長野事務所
 増田 祐一 (株)アルス設計
 町田 憲一 (株)宮本忠長建築設計事務所
 松下 重雄 (有)みすゞ設計
 丸山 幸弘 館設計工房
 三浦 憲 (株)三浦設計事務所
 御子柴 進 (株)建築研究所フォーラム
 溝端 利一 (株)宮本忠長建築設計事務所
 南島 宗市 (株)桂建築設計事務所
 三村 哲夫 英建築設計事務所
 宮澤 秀治 宮澤秀治建築空間研究所
 宮下 治 (有)アイ設計
 宮本 忠長 (株)宮本忠長建築設計事務所
 宮本 仁夫 (株)宮本忠長建築設計事務所
 山岸 信藏 (株)橋建築長野事務所
 山住 博信 A・E・D 建築研究所
 湯本 弘行 (株)誠設計事務所
 吉川 一久 諏訪n設計企画
 依田 政司 (株)依田建築設計事務所
 渡部 袈裟己 (有)渡辺建築設計事務所

事 務 所 会 員

(株)アーキ・クリエイション
 (株)アーキディアック環境計画研究所
 甘利享一建築設計舎
 新井建築工房+設計同人NEXT
 (株)アルス設計
 (株)飯島建築設計事務所
 池田建築工房
 出澤潔建築設計事務所
 (株)伊藤建築設計事務所
 (有)A & A 構造研究所
 (株)桂建築設計事務所

片倉隆幸建築研究室
 (株)カミムラ建築研究室
 (有)かわかみ建築設計室
 (株)環境計画
 環境プランニング
 君島弘章建築設計事務所
 (有)久保田建築設計事務所
 (株)倉橋英太郎建築設計事務所
 計画工房都市建築設計事務所
 (株)建築研究所フォーラム
 小松一級建築士事務所

(有)斎藤建築デザイン室
 (株)櫻井武久建築設計研究所
 (株)シティープラン
 彰建築設計事務所
 (株)城取建築設計事務所
 (株)鈴木建築設計事務所
 諏訪n設計企画
 (株)誠設計事務所
 (有)関建築十まち研究室
 (有)武井建築設計事務所
 N A O 設計室
 (株)羽生田建築設計事務所
 (株)マルタ設計長野支所
 (株)三浦設計事務所
 (有)みすゞ設計
 (株)宮本忠長建築設計事務所
 (株)依田建築設計事務所
 (株)ローカル建築設計室
 (有)渡辺建築設計事務所

賛 助 会 員

(株)五十鈴
 (株)イトーキ長野支店
 岩崎電気(株)長野営業所
 岩月瓦工業(株)
 (株)岩野商会
 (株)越前屋
 オーデリック(株)長野営業所
 (株)岡村製作所長野支店
 (株)角藤長野支店
 鐘淵化学工業(株)東京支社
 川鉄建材工業(株)長野営業所
 関東地質(株)長野営業所
 木村工機(株)長野営業所
 (株)国代耐火工業所名古屋支店
 (株)栗本鉄工所
 (株)クリーン長野
 (株)甲州屋
 坂田工業(株)
 桜井塗装工業(株)
 サンエイ(株)

三協アルミニウム工業(株)長野支店
 (株)サンゲツ長野営業所
 三洋電機環境設備(株)長野営業所
 (株)シノダ
 (株)シマコー
 昭和鋼機(株)
 信越化学工業(株)長野営業所
 信越アステック(株)長野営業所
 (有)水研設備設計事務所
 炭平コーポレーション(株)
 (株)創和システム
 第一公害プラント(株)
 (有)泰成電機工業
 ダイダン(株)長野営業所
 (株)ダイレックス新潟営業所
 (株)タキザワ・ホーミング
 竹村工業(株)
 (株)タジマ長野営業所
 田島ルーフィング(株)大宮営業所
 立川ブラインド工業(株)松本営業所

立山アルミニウム工業(株)長野営業所
 立山アルミニウム工業(株)松本営業所
 中信電機(株)長野支店
 中部電力(株)長野支店
 土屋工業(株)
 東海コンクリート工業(株)長野営業所
 東京理工器(株)
 トステム(株)ビル甲信越支店
 トライアン(株)
 (株)ナガイ
 長野外装工業(株)
 (株)長野コクヨ
 長野三菱電機機器販売(株)
 (株)日建エンジニアリング
 (株)日創建材
 日本ヒート(株)
 (株)新潟デザインタイトルセンター長野支店
 日本屋陶器瓦協業組合
 (株)ニュースト
 野安製瓦(株)
 東日本旭化成建材(株)
 (株)不二ファニチャー
 (株)双葉飯田営業所
 プラン21コーポレーション(株)
 (株)前田鉄工所
 松下電工(株)長野住設建材営業所
 松田産業(株)
 丸五(株)長野出張所
 (株)丸富久
 (株)本
 矢崎総業(株)長野支店
 (株)ヤジマ
 ヤマキ工業(株)
 (株)山
 ルームデザインハウス
 リリカラ(株)松本営業所
 (株)YKKAP長野松本営業所
 綿半鋼機(株)長野支店

クラブインサイド

第2回まちづくり特別委員会 川上 恵一

3月30日、松本市の景観賞選考委員長の西沢健氏より呼びかけがあり、6名が出席。『城下町と都市環境デザイン』のテーマで松本の見学交流会を5月31日に、また長野県の景観マップの作成協力も依頼され、対応することにした。

第1・2回会員委員会 松下 重雄

4月7日、5月30日に開催。毎年総会併催している学生卒業設計コンクールと会員作品の合同展を県内各地への巡回展とすべく、出澤会長と上村事業委員長に具申しながら精力的に検討。お陰で今年から現実のメド立つ。

第1回総務委員会 関 邦則

総会開催を控えた4月11日に長野市の建築士会館において開催。新年度からの地域会スタートを睨みながら定款を規定として再検討し、併せて入退会・表彰・委員会・運営の各規則の新設、改定を検討。理事会に諮る。

第1回建築家カタログ作成特別委員会 倉橋 英太郎

5月6日開催。仮称「信州建築家カタログ」アンケート回収のまとめと今後の対策について検討。本の内容と費用について検討。今後は部会を設置し、さらに詳細な計画を進め、遅くとも来年春には発刊の予定とする。

第1回理事会 御子柴 進

5月9日(金)「松本市駅前会館」において第1回の理事会が行われた。『各委員会・支部の報告』『会員入退会』『97年通常総会』『信州建築家カタログ』等について論じられた。

卒業設計コンクール審査会 上村 保弘

県学生卒業設計コンクール'97の審査会は5月9日松本市駅前会館で開き、大学、高校各部門の入賞作品を決めた。応募は、大学が信州大学から7件、高校が建築科を持つ4校から12件。例年同様の審査員によって審査。

第1回交流委員会 高橋 重徳

5月30日開催。賛助会員メーカーリストを改訂するにあたり、より発展的に会員相互のコミュニケーションを進めるため、(仮称)会員コミュニケーションファイルとする。内容はコミュニケーションシート、コミュニケーションリスト、事務所会員カード、賛助会員カードの4部構成とする。実施は8月頃。発行部数250部程度としたい。

第2回理事会 久保田 三代

第2回の理事会は、6月3日、山王共済会館で開催。出席率は100%。盛沢山の議案と報告事項がありましたが、会員作品展、仮称「信州建築家カタログ」、賛助会員の参加・協力が話題の中心でした。

97年度通常総会

川上 恵一

6月3日、山王共済会館で開催。今年から長野地域会として再出発するにあたり出澤会長があいさつ。会議では懸案だった定款の改正、本年度の事業計画、予算案が承認された。続く学生卒業設計コンクール'97の表彰式では関係者約80名が出席。会場には学生の入賞作品、会員の作品が展示された。

鬼頭祥先生の記念講演は「未来を創る」がテーマ。講演の後、先生は建築の社会的責任と質の向上のための資格制度について言及し、その確立への決意を述べた。

懇親会は70名が参加。クラブ創立10周年にあたり、クラブ発展に寄与した宮本忠長氏、伊藤宗春氏、笠井邦夫氏、西原重男氏に感謝状が贈呈された。

クラブアウトサイド

JIA文部総会

出澤 潔

5月21日支部総会がJIA館で開催されました。今年自分達の城での総会とあって、アットホームで和やかな雰囲気が漂うなかで行われました。議長席と司会席だけがセットされたスマートな会場での議事はとてもスムーズに執行部原案通り決定されました。地域会のこと、10周年記念大会のことなど話題の多い総会でした。

アーキテクツガーデン'97

関 邦則

6月11日東京に出かけたので間を縫って新宿工学院大学のアーキテクツガーデン会場に立寄り。模型、CG図面、スケッチ、パネル等が所狭しと並べられる。

学生の作品もなかなかの出来栄。当クラブも右のようなパネル出品。



— 新入会員紹介 —

正会員

西沢利一 (株)西沢建築研究所 (長野市)

賛助会員

(株)新潟デザインタイルセンター長野支店 (長野市)



編集人 関 邦則

発行人 出澤 潔

発行所 JIA長野県クラブ

長野市大字南長野野

宮東426-1

長野県建築士会館内

TEL 026 (232) 3897

FAX 026 (232) 5303

作成 新建新聞社